

付録 28

ムハンマドは神の啓示を自らの手で書き記した

最初の啓示は「読め」であり、その中には「神はペンによって教える」という言葉が含まれている（96:1-4）。そして第二の啓示は「ペン」（68:1）である。ペンの唯一の役割は書くこと。

コーラン後初期の二世紀にいた無知なイスラム学者たちは、コーランが「これに似たものを作ってみよ」と挑戦している意味を理解できなかった。彼らはコーランの数学的構成について何も知らず、多くの文学的巨匠がコーランに匹敵する作品を書けることを知っていた。実際、そのような主張をした文学者も多く存在し、最近では著名なエジプト人作家タハ・フセインもその一人だった。

そこでその学者たちは、ムハンマドを「文盲」とであると宣言することにした。そうすれば、コーランの卓越した文学的完成度が奇跡的に見えると考えたからだ。彼らがこの主張の根拠とした言葉は「UMMY（ウンミー）」だった。しかし、この語は明確に「異邦人（啓典を持たない者）」を意味し（トラー、福音書、またはコーランに従わない者）[2:78、3:20・75、62:2 参照]、「文盲」という意味ではない。

預言者は成功した商人だった。「文盲」という説を作り出した学者たちは、当時は数字が存在せず、アルファベットの文字が数字として使われていたことを忘れていた。日常的に数字を扱う商人として、預言者は1から1000までのアルファベットを理解していなければならなかったのである。

コーランは、ムハンマドがコーランを書き留めたと示している。彼の同時代人の言葉として次のように引用されています。「これは彼が書き写した昔話であり、昼も夜も彼に読み聞かせられている。」（25:5）文盲の人に「口述」することはできない、と説明されている。預言者の敵対者が彼を文盲だと主張する際には29:48を利用するが、この節は以前の聖典について述べているものである。

ヒジュラ以前13年のラマダーン月27日の夜、ムハンマドの魂、すなわち真の存在（肉体ではない）が最も高い宇宙へ呼び上げられ、そこでコーランが授けられた（2:97、17:1、44:3、53:1-18、97:1-5）。その後、天使ガブリエルがムハンマドを助け、魂から記憶へと少しずつコーランの節が解放された。預言者は、その時々と与えられた節を書き留め、暗記した。預言者が亡くなったとき、彼は啓示の年代順に、自らの手で書き記した完全なコーランを残し

ていたのである。また、各節をどこに配置するかについての具体的な指示も残されていた。預言者によって記録された神の指示は、コーランを最終的な形へとまとめるために設計されたものであり、それが世界への神の最後の聖典となるよう意図されていたのである。(75:17)。初期のムスリムたちは、カリフ・ウスマーンの時代になるまでコーランを一つにまとめる作業を行わなかった。この作業のために委員会が設置された。詳細については付録 24 を参照。